

# 洋服づくりでキツク社会 探究のしおり

## 探究のしおりとは

本資料は、探究・STEAM 教育動画「ともにキツク社会」シリーズの動画を観たうえで、さまざまな角度から考え、探究するためのヒント集です。動画を観て生まれた自分の「気づき」「疑問」「引っかかり」を大切にしながら、行き詰まったときや、もっと視点を増やしたいときに開いてみてください。

# 12の探究アプローチ

「なぜ?」「ワクワク!」という気持ちがいいたら、もっと探究してみよう。探究の仕方はひとつじゃない。自分の興味に合わせて、12のアプローチを組み合わせながら、発見を積み重ねていこう。

## 探索・調査的な活動

- **かんじる**  
身のまわりの物事に五感を向けて感じ取る
- **しらべる**  
本やインターネットなどで情報を集める
- **さがす**  
身のまわりから必要な情報や材料を見つけ出す
- **まぐ**  
さまざまな人の話に耳を傾ける
- **かんさつする**  
視点を変えながら、じっとよく見る
- **くらべる**  
他のものと比べて、ちがいに目を向ける

## 追究・創造的な活動

- **かんがえる**  
知識をいかして、理由やつながりをまとめる
- **はなしあう**  
友達や家族と意見を交換し合う
- **つくる**  
手を動かして、実際にかたちにする
- **ひょうげんする**  
頭の中のイメージを具体的に伝える
- **ためす**  
新しい方法やアイデアを実験する
- **ふりかえる**  
自分の体験をじっくり思い出し、見直す

## 動画紹介

<https://scienceteam.jst.go.jp/channel/b240001/b240001001/>



# 「洋服づくりでキツク社会」

動画は  
コチラ!



みなさんが毎日着ている洋服。これらは、さまざまな人の手を  
経て、つくられ、つながり、私たちのところへ届けられます。洋  
服には、どんな人の、どんな思いが込められているのでしょうか。  
洋服づくりの向こうにあるストーリーを紹介します。

動画を観て「なにこれ?」「わっ!面白い」「知らなかった~」  
「もっと知っているぞ!」と思ったり、感動・感激したりする  
ところがあるでしょう。あなたのキツキから探究を始めましょう。

## キツキ 1

## ワクワク

### 服を選ばって、ワクワクするよね!

お気に入りの服に袖を通すときに感じる、あのワクワク。「似合っているかな?」とちょっとドキドキもするけれど、やっぱり好きなものは好きだよ。



動画のシーン  
(0分20秒)

「服って、その人の好きなものや考え方を表してくれますよね……自分に似合う服が見つかったら、新しい自分を見つけられた気がする!」

## もっと探究

### ● ふりかえる

見かけなんて気にしないでいい。身につけると、気分だけでなく運まで上向く気がする服だってある…あなたにとって、それはどんな服?どんな場所で着ていたかも思い出そう。

### ● ひょうげんする

写真や雑誌の切り抜き、色紙を使ったコラージュ、CGなどで「いいな!」と思う自分のイメージをつくってみよう。さらに、実際の服選びや着こなしにも生かそう。

### ● はなしあう

子どもの頃、手づくりのドレスや仮面で変身したことがあるのでは?その気持ちは、年齢を重ねても変わらないのかな。40歳、80歳になったとき、どんな服にワクワクするだろう?

デザインって、形だけのこと？

デザインの対象は、モノだけでなくコトにも広がっている。誰のため？何のため？一着の服を手にとって、「どんな工夫があるか」「なぜこうなっているのか」を見直してみよう。



動画のシーン  
(1分24秒)

「洋服づくりは、デザインから始まります。」

かんさつする

服のデザイン画を見たことはあるかな？一見シンプルなスケッチでも、のちのちの工程のための情報がたっぷり含まれている。完成した服の写真と見比べてみよう。

しらべる

戦国時代の武将は鎧兜（よろいかぶと）を身につけ、戦うだけでなく強さを誇示していた。服の中には、機能性を重視した近代の軍服をルーツにもつものもあるけれど、魅力はそれだけだろうか？

ひょうげんする

ファッションショーを見たことはある？「どこで誰が着るの？」と思う奇抜な服もあるけれど、実は未来を先取りした提案かもしれない。そんな「未来の服」を考えてみよう。

服と色の関係って？

服を選ぶとき、「同じ形だけれど、どっちの色にしよう？」と悩むこと、あるよね。色が変わるだけで、気分も着こなしもガラッと変わる。服と色の関係って、思った以上に深そうだ。



動画のシーン  
(2分29秒)

「素材や色、機能性などを考えながら、スケッチとして表現していきます。」

まぐ

店員さんに声をかけられ、話すうちに「これだ！」と思える一着に出会うこともある。お客さんと一緒にお気に入りを見つける極意は何だろう？

ためす

「色に染まる」という言葉があるほど、色は人と関わっている。野菜の皮や草花、紅茶の茶葉など身近な材料で布を染めてみよう。時間や温度を変えると、色の出方はどう変わるだろう？

かんがえる

飛鳥時代の「冠位十二階」は、冠の色で序列を表す仕組みだ。一番高い位を表す紫色も、現代では誰も身につけている。当時の人が見たら、どう思うか想像してみよう。

ピチピチよりダボダボ？「心地よさ」はどこで決まる？

同じような服でも、身につけたときの感じ方はさまざま。肌ざわり、重さ、動きやすさ、フィット感、通気性…いろいろな要素が組み合わさって「着心地」になる。人によって大切なポイントも違いそうだね。



動画のシーン  
(3分38秒)

着心地というのがやっぱり非常に大事

「こだわりは、(洋服は) オブジェじゃないので、着なきゃいけないので、着心地というのがやっぱり非常に大事」

はなしあう

「着心地がいい」と思う服を持ち寄って話してみよう。交換して着比べ、感想を伝え合うのもいい。それぞれが感じる着心地の違いには、どんな理由があるのだろうか？

かんがえる

インターネットで服を買うとき、写真や寸法、購入者の感想は見られても、試着はできない。「着心地」を事前に予想することは、どこまでできるのだろうか？

ためす

アスリートは記録をねらうために、ミリ単位でウェアや用具を調整していると聞いたことがあるのでは？自分のウェアや用具で気になるところを調整してみよう。

着たいのに、着られない服があるのはなぜ？

同じ服でも、平気な人と、かゆくなったり赤くなったりする人がいる。原因は素材や染料だけじゃない。肌の敏感さ、汗、静電気、こすれ…小さな刺激が強い不快感になることもある。



動画のシーン  
(5分30秒)

「アレルギーに敏感なお子さんたちがだんだん増えてきたと。」

しらべる

服を着るとチクチク、ヒリヒリ、パチパチ…。皮ふはとても敏感だ。そんな刺激がどうして不快なものと感じられ、ときには身体を守る免疫力を低下させるのだろうか。

ためす

冬にセーターを脱ぐと…静電気がパチッ！となることがあるね。服装を工夫すると対策できるよ。静電気が起こりにくい素材を組み合わせ、コーディネートしてみよう。

かんがえる

敏感さは弱さ？それともセンサー？困る場面もある一方で、変化に気づける強みにもなり得る。暮らしの工夫や社会の配慮、さまざまな仕事での捉えられ方も手ごかりに考えてみよう。

ブランドって何だろう？

「ブランド」ってよく聞くけれど、お店の名前やロゴマークだけのことではないらしい。同じような服でも、ブランドが違えば印象や値段が変わるのはどうしてだろう。ブランドの価値は、どんな要素でつくられているのかな？



動画のシーン  
(8分45秒)

「ゆっくりと織り上げることで、丈夫で味わい深い生地を生み出します。ここでつくられた生地は、多くの高級ブランドで採用されています。」

くらべる

世の中にはたくさんのブランドがある。たとえばスポーツブランドなど、同じジャンルのブランドを複数選び、商品の特徴や店の雰囲気、広告のメッセージなどの観点から比べてみよう。

まぐ

有名なスポーツブランドの用具を使えば、記録向上につながるのだろうか。プロからアマが語るこだわりを集め、運動部の先輩や友だちの意見も聞いてみよう。

はなしあう

ブランドの価値は、見た目や人気だけで決まらない。デザインや素材、ストーリー、価格のつけ方など、多くの工夫が重なってできている。その魅力とともに、どんな課題があるだろう？

「生地」と聞いて思い浮かべるものは…

「生地」といえば、パンやお菓子。あるいは、布や服？どちらも、まだ何も手を加えていない「生」の状態にあるものだ。だからこそ、それを生かして何かをつくりたくなるよね。



動画のシーン  
(9分15秒)

弾力性 ストレッチ性があるって使いやすい

「……生地もリラックスしていて、その人の体型に合っていくですとか、傷みにくいですとか、弾力性、ストレッチ性があるって使いやすいという特徴があります。」

しらべる

縄文時代の土偶には、服のようなものを身につけた姿もある。その材料は何だったのだろうか？獣の皮、植物繊維で編んだ布…。どう縫い合わせ、どう留めていたのかも調べてみよう。

くらべる

デニム、ガーゼ、レース、キャンバス。どれもコットン素材によくある生地だ。伸び方や重さ、手ざわりはどう違う？洗濯のしやすさや手入れ、機能面も比べてみよう。

つくる

編み物の編み方はたくさん種類がある。棒編み、かぎ編みの編み方を調べてみよう。簡単な編み方から始めて自分でデザインした生地の柄や模様をつくりだしてみよう。

「身にまとう」科学技術！

服は「第二の皮ふ」とも言われる、いちばん身体に近い道具。同じような服でも、濡れにくさ、ムレにくさ、軽さ、動きやすさはぜんぜん違うことも。見えない技術の工夫が、私たちの体を快適に保ってくれているんだね。



動画のシーン  
(1分40秒)

「高機能って、どういうこと？…例えば、撥水性や透湿性、さらには抗菌やUVカットなど、機能性を持たせた生地です。」

しらべる

火の中、水の中、極寒の世界、果ては真空の世界へ…人間が出向くところはとどまらない。その過酷な環境で身体を守り、生命を維持する工夫を備えた服について調べよう。

かんさつする

撥水（はっすい）コーティングは、フッ素やシリコン成分で布の表面に細かなデコボコをつくり、水滴を球状にして弾いている。これと似た仕組みは身近にもある。探して観察しよう。

ためす

「撥水加工」を自分で試してみよう。撥水スプレーや撥水剤などを使って実際に加工し、水のはじき方を比べてみよう。「防水加工」とは何が違うのかな？

服にも「設計図」がある

服は、布を切って縫えばできる…だけじゃない。どこをどう切り、どうつなぐかを決めるのが「パターン」。考え抜かれた設計図が、動きやすさもシルエットも決めている。



動画のシーン  
(1分30秒)

「パタンナーは、デザインを元に布地をどのように裁断し、組み合わせるかを考えます。」

かんさつする

古着のシャツやブラウスを解体して、つくりを観察してみよう。解体する前と後で、袖ぐりや衿（えり）ぐりの印象はどう変わる？パーツの数も数えてみよう。

ためす

Tシャツを自分で縫ってみよう。つくり方を見ると、布の向きや縫い方など注意点が多い。1着は手順どおりに、もう1着はあえて一部を変えてつくり、形や着心地の違いを比べてみよう。

しらべる

大量生産の服では、布を無駄なく使うためにパターン（型紙）や型入れが工夫されることがある。布のロスを減らす設計の工夫と注意点を調べてみよう。

職人のすごさは「手」にある？

職人は何がすごいだろう。いちばん活躍している体の部位は、やっぱり「手」かもしれない。自分の手と職人の手、どんなところが違うだろう？



動画のシーン  
(1分50秒)

「縫製職人は、デザイン通りに布を縫い合わせるだけでなく、着心地や耐久性を考慮して、精密に仕上げます。」

かんじる

職人技は、五感を最大限に働かせる営みだ。身体で感じ、手を動かしてつくり上げていく。そうしてつくり上げられた品物にふれて、職人の技を感じ取ることができるかな？

きく

自分の地域にも、長く受け継がれてきた手仕事の技術はあるかな。職人を探して、仕事の誇りやこだわり、職人になるまでの道のりを聞いてみよう。

はなしあう

10年後、手仕事は消える？それとも生き残る？A | パターンや自動裁断など技術が進化する一方で、職人技は新しい役割や価値を帯びていくはず。服づくりの未来について考えてみよう。

---

## サイエンステーム 「ともにキヅク社会」 探究のしおり

2026年3月発行

【発行】 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）  
〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3

【監修】 かえつ有明中・高等学校 教諭 深谷新

【企画制作】 株式会社 a.school（エイスクール）



<https://scienceteam.jst.go.jp/>



<https://www.jst.go.jp/>



---

○ 本書に関するお問い合わせは、「サイエンステーム」ウェブサイト内「お問い合わせ」からお願いいたします。

©2026 科学技術振興機構（無断転載を禁じます）

2026年3月